

はしがき

ワーク・ライフ・バランスという言葉は、かなり有名になってきました。主に、仕事と家庭の両立を連想する人が多いのですが、本当は幅広い分野に及び、日本のほとんど全ての働く人に関係があるといってもおかしくありません。

ワーク・ライフ・バランスは、若者の就職問題から、労働時間、非正規雇用、メンタルヘルス、高年齢者の雇用など多様な内容を含んでいます。関連する題材をトピックとして取り上げ、雑誌『月刊総務』の2009年4月号から「総務の引き出し」(ワーク・ライフ・バランス)という欄で連載してまいりました。このたびこれをベースにして、主要なデータと解説も付け加えて、一冊の本にすることができました。もともと、会社の総務・人事の方に向けたコラム解説ですので、どこからでも読んでいただくことができ、身近な題材を糸口に、ワーク・ライフ・バランスに関する理解が自然に進んでいくことを期待しています。

第1部は、ワーク・ライフ・バランスに関する基本的な情報を、政府公表データとともに解説しています。これを見れば現状を概観できます。地方公務員共済組合連合会で行った講演をベースにしていますので、話し言葉で読みやすくなっています。

第2部は、これまで「総務の引き出し」で書いたものを、ほぼそのまま載せています(名称や役職も基本的に当時のままとしています。統計データは必要に応じ新しくしています)。政策も、環境も、企業の取り組みも、日々変化している中にありますが、取り上げた事例は、他に先駆けて進んだ取り組みを行ってきた企業のケースを紹介しているので、その時点の状況が分かることにも意味があると考えました。また、これから本格的に取り組もうとしている会社におかれては、先行している会社の発想や工夫、担当者の苦労話などは、大いに参考になると思われます。

本書の内容につきましては筆者の個人的見解ですが、これまでの勤務、とりわけ財団法人21世紀職業財団で、さまざまな事業を実施する過程で得た知識や経験に多くを負っております。特に、企業で実際に担当されている方のヴィヴィッドな意見や感想に、はっとさせられたことが、何度もありました。問題は現場で生じ、その解決方法も、現場で、試行錯誤しつつ編み出されていることを実感します。事業にご参加、ご協力をいただいた企業の人事部門の方々、特に財団の実施した水準の高い（と自負する）調査研究にご尽力いただいた研究者の方々に、深く感謝申し上げます。また、財団の厳しくも頼もしいリーダーであった松原亘子会長、共に努力し、助けていただいた菅原千枝部長をはじめとする当時の同僚の皆さまに、あらためてお礼を申し上げます。

また、現在勤務している帝京大学では、優等生からスポーツに打ち込む人までさまざまなタイプの学生がおり、彼らの話から新鮮な刺激を受けました。学生は、サラリーマンとして働くことの実感をまだ持っていないので、この本に書いたような内容を授業で話したところ、真剣なまなざしで、静まりかえって聞いてくれました。これから企業社会に入っていく学生の皆さまにも、ワーク・ライフ・バランスの現状を理解するのに、この本が参考になるものと考えています。

また、秩父夜祭などすてきなイラストを載せることを快諾いただいたカケイ キョウさんにも感謝申し上げます。彼女は、私が埼玉労働局勤務時に、若者の雇用対策等で特段のご協力をいただいた、秩父の事業主である山根益男氏の娘さんでもあります。このイラストのように、多くのサラリーマン、サラリーウーマンの皆さまが、ワーク・ライフ・バランスを実現して、家族で花見を楽しみ、地域の祭などに参加できる社会になることを期待します。

本書の刊行に際して、株式会社法律文化社の小西英央氏に大変お世話になりました。本書は小西氏の的確なアドバイスに多くを負っております。また雑誌『月刊総務』に掲載させていただき、このような形で出版することを了承してくださったウイズワークス株式会社と同社の高橋大輔氏、森

西美奈氏に深く感謝申し上げます。

この本が、企業の人事、総務の担当の方をはじめ、この問題に関心を持つ方々の役に立つことを祈っております。

2014年 秋

村 上 文